

初乗距離短縮運賃について

平成28年11月2日

目次

- 東京のタクシー業界の現状について (P.2～11)
(別添「2016東京のタクシー」参照)
- 初乗距離短縮運賃を申請した背景と期待される効果 (P.12～15)
- 初乗距離短縮運賃の概要 (P.16～18)
- 利用者への説明とご意見について (P.19)
- タクシー業界の新たな取り組み (P.20～23)



より安価で利用しやすい運賃制度の導入に向けて、**「初乗り距離短縮運賃」(400円台)に取り組みんでいます。**

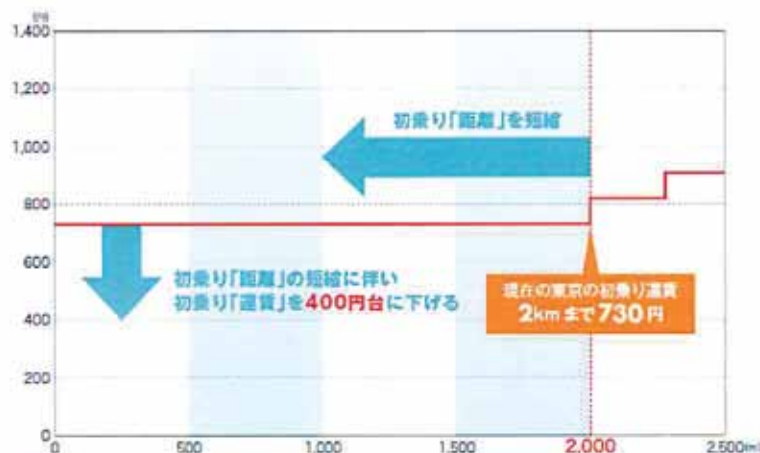
「初乗り距離短縮運賃」取り組みの目的

東京のタクシー運賃は海外の大都市と比べても決して高くはありません[※]が、初乗りの距離が2kmと比較的長距離に設定されているため、初乗り運賃は現在730円となっています。

この初乗りの距離を短縮し、運賃を400円台に下げること、従来のお客様がより利用しやすくなり、さらに外国人観光客の方や、今までタクシーをあまり利用していなかった方(高齢の方や若年層など)にももっと気軽にご利用いただけるよう、短距離利用のニーズに対応した新しいタクシー運賃制度の導入に向けて、いち早く動いています。

※F23(海外主要都市タクシー運賃比較)の抜粋

「初乗り距離短縮運賃」の概況



現在の東京の初乗り運賃は2kmまで730円(2016年6月現在)



2020年の五輪・パラリンピック開催までに、**UDタクシー1万台導入を目指します。**

UD(ユニバーサルデザイン)タクシー

東京都が2016年度予算案でUD(ユニバーサルデザイン)タクシー導入支援として約61億円を計上し、購入1台あたり60万円を補助することになりました。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに、都内のタクシー約5万台のうちの2割にあたる1万台の導入を目指します。



導入の進捗(乗客1人あたり)

	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県
23年度実績	2台	15台	—	6台
24年度実績	13台	71台	10台	6台
25年度実績	13台	34台	4台	1台
26年度実績	15台	17台	4台	5台
27年度実績	8台	6台	6台	1台

※東京都発表

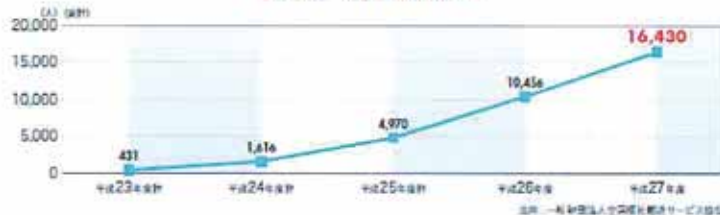


ユニバーサルドライバー研修(UD研修)

高齢者やお体の不自由な利用者とのコミュニケーション、車いすの取扱いや乗降時の介助方法などについて実施される研修で、(一財)全国福祉輸送サービス協会が実施しています。平成26年4月1日からは(公財)東京タクシーセンターでの乗務員になるために必要な講習にも組み込まれており、東京では2020年までに乗務員の半分以上が資格者となる予定です。



UD研修 修了者推移(東京)





五輪・パラリンピック開催までに、
観光英語対応ドライバー300人の育成を目指します。

TSTIE (タスティエ) ドライバー認定制度

平成 27 年より「TSTIE ドライバー」の認定制度を設け、英語による観光案内が可能なドライバーの育成を進めています。

平成 28 年 2 月時点で 15 人の TSTIE ドライバーが認定されていますが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに 300 人の TSTIE ドライバー育成を目標としており、今後一層の増加が見込まれる海外からのお客様に対するサービスの向上に努めています。



TSTIE ドライバー認定プログラム
"Tokyo Sightseeing Taxi in English"
を指して「タスティエ」。

TSTIE ドライバー認定の条件

(Step1)

- 東京シティガイド検定に合格していること。
- ユニバーサルドライバー研修を修了していること。

(Step2)

- 東京観光タクシードライバー認定研修を修了していること。

(Step3)

- TOEIC600点程度以上のスキルを持っていること。

(Step4)

- 観光英語対応ドライバー認定プログラムに合格すること。
(20時間の研修+スピーチテスト)

TSTIE ドライバー 目標人数推移



検定改善方法での効果

【外国語による有効観光案内サービスの拡大】

*検定や研修を受け、一定レベル以上の質の確保が確認できるタクシードライバーについては、通訳案内士の資格がなくても、有料で観光案内ができるよう関係部局へ要請中。



通訳の
同乗が必要
費用負担大

通訳の
同乗不要
費用負担小

外国人が気軽に英語で観光案内を受けられるようになり東京観光の魅力が向上



海外のお客様に対する
良好な環境づくりを進めています。

外国語対応タクシー（ホスピタリティタクシー）の運行



この表示板が目印

外国人接客研修進捗

(公財)東京タクシーセンターにおいて実施するロールプレイ演習を取り入れた研修は、外国人の習慣やタクシー営業に必要な基本的な会話等を知る、接客向上を目的とした内容となります。



外国人接客研修修了者専用レーン

平成 26 年 12 月 15 日より、上記研修を修了した者が入構出来る専用レーンの供用を開始しました。英語でコミュニケーションが出来るタクシーを選んでご乗車いただける乗り場として、「おもてなし」度の向上を図ります。



ホスピタリティタクシー乗降員数の推移





東京最大・12,000台強の スマホ配車システムをご利用ください。

スマートフォンアプリによる配車(スマホdeタクくん)

スマートフォンアプリを利用してタクシーを素早く簡単に呼ぶことが可能になりました。オペレーターに迎え先や住所、目的地を説明する必要がないなど多様な機能を備えていることから、利用者が増加しています。

東タク協においても、世界的に初の試みとして、タクシー会社の枠を超えて特別区・武三地区で最も近い車両を呼ぶことが可能なアプリ、「スマホdeタクくん」の本格運用を平成26年1月22日より開始しました。

当アプリでは、多摩地区を含めて現在12,412台の車両を呼ぶことが可能です。(都内のタクシーの総台数は約44,000台で全体の約28%)

(都内の法人タクシーの総台数は約30,000台で全体の約41%)

現在運用中の日本語版・英語版アプリの他、多言語化や観光アプリとの連携等を含め、オリンピック・パラリンピックに向けて強化してまいります。

●「スマホdeタクくん」公式HP <http://takkun.taxi-tokyo.or.jp/>

ぜひ、ダウンロード
してください!



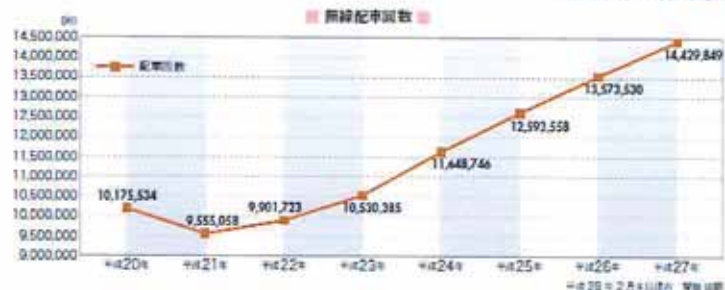
デジタル化・IT化を推進し、 サービスの向上に努めています。

乗客配車の効率化

デジタルシステム導入による効果

平均配車受付時間の短縮(A無線グループ実績)

アナログ無線：70秒 → デジタル無線：27秒 (※平成20年11月現在)



クレジットカード・電子マネーなどへの対応

利用者の支払方法の多様化に対応すべく従来からの現金・チケット・クーポン券に加えクレジットカードやICカード、電子マネーを利用し、キャッシュレスでスピーディな支払いが可能になりました。

導入費は1台あたり約30万円程ですが、導入台数は年々増加しています。

クレジットカード導入：91% 電子マネー導入：64%

(※平成27年3月31日現在)

